

第15回  
中小企業景況調査報告書

(平成19年10月～12月期)

平成20年1月調査

平成20年2月15日

鎌倉商工会議所

中心市街地サポートマネージャー：鈴木基之

## 第 15 回 中小企業景況調査結果

1. 調査目的 この調査は、鎌倉市内の中小企業の景況を調査、その動向を分析して鎌倉市内の事業所の経営に役立つ資料を提供することを目的とする。
2. 調査対象 鎌倉市内の中小企業特に小規模企業（製造業・建設業・最寄品小売業・買回品小売業・飲食業・サービス業）の中から 150 企業を抽出する。

	製造業	建設業	小売業		飲食業	サービス業	合計
			最寄品	買回品			
調査件数	15	15	23	30	37	30	150
回答数	13	14	20	30	25	22	124
回答率	86.7%	93.3%	87.0%	100.0%	67.6%	73.3%	82.7%

3. 調査方法 郵送によるアンケート方式(一部経営指導員による聞き取り)

### 4. 調査項目

- (1) DI の状況について

自社の状況      売上額      資金繰り      採算      従業員数

- (2) 設備投資について

- (3) 経営上の問題点について

5. 調査期間 平成 20 年 1 月 7 日～平成 20 年 1 月 31 日(1 月 1 日現在で記入)

平成 19 年 10 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日

調査時点は四半期毎に実施。(7 月・10 月・1 月・4 月)

### 6. 調査データについて

- (1) DI 指数：Diffusion Index(デフュージョンインデックス・景気動向指数)の略。

各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値で、企業の景況感の判断に使用する指数。

- (2) データ「本年と前年の数値を対比」

< 計算例 >

「やや増加」・「やや好転」50% 「変わらず」20% 「やや悪化」・「やや減少」30%  
の場合。  $DI = 50\% - 30\% = 20\%$

### 7. 経営状況 DI 推移

	経営状況	良い	普通	悪い	DI
第 1 回	平成 16 年 7 月調査	11(14.9%)	30(40.5%)	33(44.6%)	29.7
第 2 回	平成 16 年 10 月調査	18(20.9%)	35(40.7%)	33(38.4%)	17.5
第 3 回	平成 17 年 1 月調査	14(15.6%)	43(47.8%)	33(36.7%)	21.1
第 4 回	平成 17 年 4 月調査	16(18.8%)	43(50.6%)	26(30.6%)	11.8
第 5 回	平成 17 年 7 月調査	18(21.2%)	45(52.9%)	22(25.9%)	4.7
第 6 回	平成 17 年 10 月調査	30(23.0%)	61(47.3%)	38(29.5%)	6.2
第 7 回	平成 18 年 1 月調査	34(25.8%)	66(50.0%)	32(24.2%)	1.6
第 8 回	平成 18 年 4 月調査	43(33.6%)	55(43.0%)	30(23.4%)	10.2
第 9 回	平成 18 年 7 月調査	36(29.3%)	54(43.9%)	33(26.8%)	2.5
第 10 回	平成 18 年 10 月調査	38(29.2%)	61(46.9%)	31(23.8%)	5.4
第 11 回	平成 19 年 1 月調査	37(27.6%)	64(47.8%)	33(24.6%)	3.0
第 12 回	平成 19 年 4 月調査	43(31.2%)	66(47.8%)	29(21.0%)	10.2
第 13 回	平成 19 年 7 月調査	39(31.5%)	61(49.2%)	24(19.4%)	12.1
第 14 回	平成 19 年 10 月調査	33(26.8%)	62(50.4%)	28(22.8%)	4.1
第 15 回	平成 20 年 1 月調査	30(24.2%)	60(48.4%)	34(27.4%)	3.2
	3 ヶ月後の見通し	20(16.1%)	61(49.2%)	43(34.7%)	18.5

# 調査結果の概要

## 1 総合 「景況感は3期連続悪化しマイナス5.6. 主要指標がすべてマイナスを示す。」

業況 DI は3期連続して悪化マイナスに転じる。先行きはマイナス20.0 と大幅な後退局面入りを示し。採算割れを示す。

設備投資はOA機器などに弱い動きがみられる。(OA機器25社(20.2%)と機械設備14社(11.3%)  
建物など13社(10.5%)、車両運搬具が10社(8.1%)、

今回(平成20年1月調査)は、業況DIが前回(平成19年10月調査)に比べ12.7ポイント悪化しマイナス5.6とマイナスに転じた。これは3期連続悪化である。売上額DIはマイナス8.3と2期連続悪化。採算DIはマイナス20.6を示した。資金繰りDIは、マイナス7.7と、主要3指標がすべて2期連続マイナスを示し採算割れをなど懸念。

3ヶ月後の業況見込みDIがマイナス20.0と今期に比べて14.4ポイント悪化の見通しを示している。主要4指標である、来期の売上見込みDIもマイナス19.6と今期に比べ11.3ポイント悪化し、来期採算見込みDIもマイナス30.9と今期に比べ10.3ポイントの悪化。資金繰りDIもマイナス21.6と13.9ポイント悪化している。3期連続しての悪化による、景況感は後退局面入りを示している。特に大幅な採算割れを懸念。

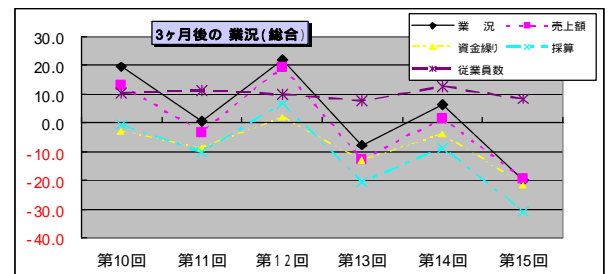
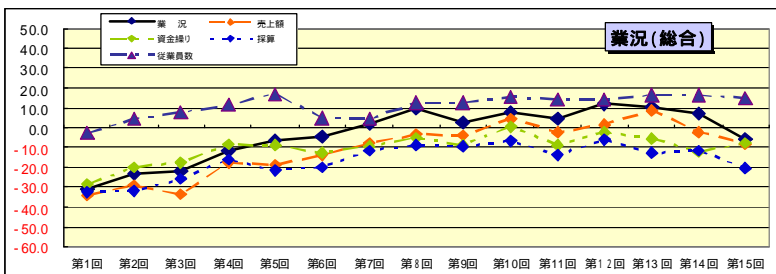
- ・ 雇用状況：人手の不足感は製造業などで上昇をうけて厳しい状況。従業員数DIは、2.1ポイント改善したがプラス14.6と労働力の不足感が続く。来期に向けては売上高の悪化を受けて少しだけ弱まる見通しです。

業種別では、製造業プラス30.8、建設業プラス7.1、飲食業12.0、サービス業9.1で人手不足感が強い

- ・ 設備投資の動向 (今期は、OA機器に25社の、機械器具、車両運搬具などに投資が見られた。)

設備投資の動向は、OA機器を導入したのはサービス業が5社最寄品小売業3社、製造業と買回品小売業が各2社、建設業と飲食業が各1社と、前回の7社から12社に増加した。・機械設備は、飲食業5社、最寄品小売業が2社と製造業、建設業、買回品小売業、サービス業が各1社の合計11社の企業、・車両運搬具は最寄品小売業で3社、建設業が2社、などの合計7社から6社となっている。建物等は、飲食業が2社の、最寄り品、回品小売業各1社の合計4社の企業がそれぞれ設備投資を実施した。

来期はOA機器9社から13社(サービス業で4社、製造業で3社、など)・機械設備3社(製造業など各1社)・車両運搬具4社(建設業1社、最寄り品、買回品小売業各1社)・建物等は6社(買回品小売業3社、飲食業で2社、サービス業で1社)が投資予定をしている。OA機器は今期と来期を合せ19.4%(25社)、機械設備(14社)、建物等13、車両運搬具10社の企業が投資計画している。



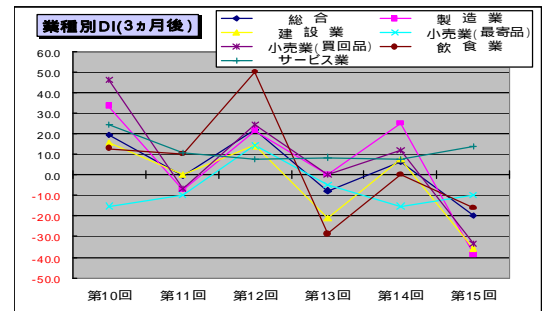
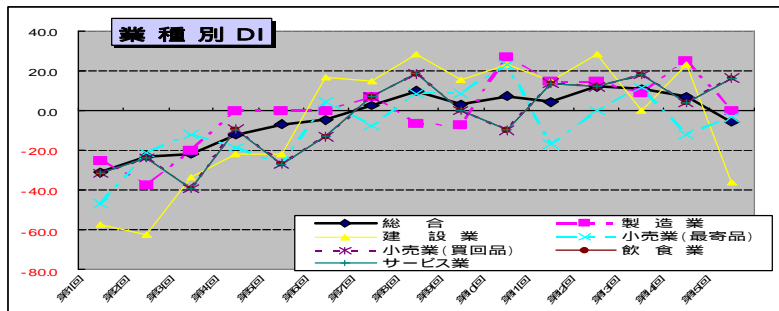
業況(総合)	対前年比															3ヵ月後					
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
業況	-31.0	-23.1	-21.9	-11.8	-6.9	-4.6	2.4	9.6	2.8	7.4	4.1	12.1	10.5	7.1	-5.6	19.5	0.5	22.0	-7.8	6.2	-20.0
売上額	-33.9	-29.2	-33.6	-17.5	-18.5	-13.7	-7.9	-3.2	-4.0	4.6	-2.2	1.7	8.5	-2.4	-8.3	13.1	-3.3	19.0	-12.8	1.6	-19.6
資金繰り	-28.9	-20.0	-17.5	-8.5	-8.9	-12.5	-9.2	-5.0	-9.0	0.6	-8.8	-2.1	-5.7	-12.4	-7.7	-2.8	-8.6	1.7	-13.2	-3.9	-21.6
採算	-32.3	-32.1	-25.8	-16.0	-21.6	-19.7	-11.5	-8.8	-9.6	-6.8	-13.6	-6.2	-12.5	-11.4	-20.6	-0.7	-10.1	6.5	-20.6	-8.8	-30.9
従業員数	-2.7	4.3	7.8	11.4	16.9	5.1	4.1	12.5	12.7	15.3	14.4	14.4	16.7	16.7	14.6	10.3	11.2	9.8	7.5	12.6	8.1
OA機器	9	7	7	7	8	6	12	10	7	15	11	2	13	7	12	9	11	5	3	9	13
機械設備	2	3	3	2	7	11	11	8	5	9	10	3	10	8	11	9	11	2	5	3	3
車両運搬具	4	4	8	5	4	8	6	2	6	12	4	5	9	7	6	6	4	5	3	4	4
建物	1	2	0	1	2	4	4	4	5	6	9	4	3	6	4	8	2	4	5	7	6
付帯施設	4	2	4	3	4																
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1			4	2	1	2	0	0	0	1	2

## 2 業種別（製造業・建設業はマイナス 35.7。最寄品小売業と買回品小売業はマイナスに転落。）

製造業と・サービス業はかろうじてプラスを確保。設備投資は、製造業やサービス業などに OA 機器に弱い動きが見られた。）

製造業は原油高や原材料の高騰により後退局面入りか。建設業はマイナスに転じ過去最悪となる。最寄品小売業は3期連続悪化した。買回品小売業3期ぶりに改善したが先行き需要の停滞など悪化懸念材料が多い。飲食業は大幅に改善したが先行き採算等の悪化懸念材料要因多く大幅なマイナスに転落か。サービス業は、2期連続悪かし、先行き改善の期待感を抱く。先行き全業種でマイナスに転落を見込みを示す。設備投資に一部に OA 機器などで明るい兆しをす。

業種別 DI は3期連続して悪化を示し先行き全業種でマイナスに転じる。景気後退局面入りを懸念材料している。業種別では、改善したのは飲食業と買回品小売業の2業種。製造業と建設業は、大幅に悪化したが原油高騰による原材料の高騰による先行き採算割れを懸念している。かろうじてプラスを維持したのは飲食業とサービス業で先行きの悪化懸念材料が多い。飲食業は5期連続してプラスを維持し今期もプラス 16.0。サービス業は10期連続プラスを維持する。3ヵ月後の見通しは、売上額・資金繰り採算ともに改善を見込み業況 DI が改善を期待。製造業は 0.0 と景気後退局面入りか。建設業はマイナス 35.7%と改正建築基準法の施工の影響から最悪。最寄品小売業はマイナス 15.0 と悪化見通し。



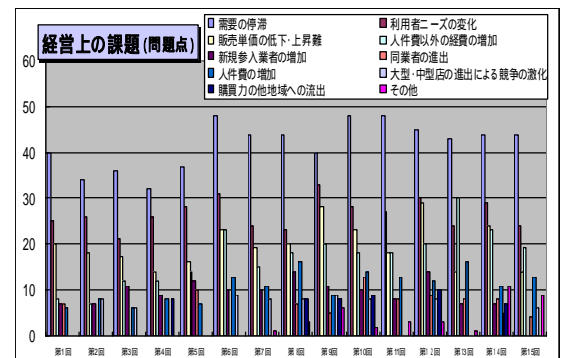
業種別	現況															3ヶ月後					
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
総合	-31.0	-23.1	-21.9	-11.8	-6.9	-4.6	2.4	9.6	2.8	7.4	4.1	12.1	10.5	7.0	-5.6	19.5	-0.5	22.0	-7.8	-20.0	-20.0
製造業	-25.0	-37.5	-20.0	0.0	0.0	0.0	6.7	-6.7	-7.1	26.7	14.3	14.3	8.3	25.0	0.0	33.3	-7.1	21.4	0.0	25.0	-38.5
建設業	-57.1	-62.5	-33.3	-22.2	-22.2	16.7	14.3	28.6	15.4	23.1	14.3	28.6	0.0	23.1	-35.7	15.4	0.0	14.3	-21.4	7.7	-35.7
小売業(最寄品)	-18.2	-23.1	-38.5	-9.1	-8.3	-35.0	-9.5	-9.5	0.0	-35.0	-15.0	14.3	0.0	-5.0	-15.0	-15.0	-10.0	14.3	-5.0	-15.0	-10.0
小売業(買回品)	-46.7	-21.1	-11.8	-18.8	-26.7	4.2	-7.7	8.3	8.7	23.1	-17.2	0.0	11.5	-12.0	-3.3	46.2	-6.9	24.1	0.0	12.0	-33.3
飲食業	-31.6	-23.8	-39.1	-9.5	-26.7	-13.3	6.7	18.5	0.0	-9.7	13.8	11.8	17.9	3.7	16.0	12.9	10.3	50.0	-28.6	0.0	-16.0
サービス業	-7.1	29.4	11.1	-11.1	11.1	0.0	3.8	18.5	0.0	16.0	14.3	3.8	25.0	7.7	4.5	24.0	10.7	7.7	8.3	7.7	13.6

## 3 経営上の問題点

企業が抱える経営上の問題点は「**需要の停滞**」と「**利用者ニーズの変化**」

「**需要の停滞**」が 35.5%(44 社)、「**販売単価の低下・上昇難**」11.3%(14 社)「**利用者ニーズの変化**」19.4%(24 社)「**人件費以外の経費の増加**」が 15.3%(19 社)、「**人件費の増加**」10.5%(13 社)、「**原材料の高騰**」が 7.3%(9 社)の企業が回答している。

総合(下段は調査数)	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
74社	86社	90社	85社	85社	129社	132社	128社	123社	130社	134社	138社	124社	123社	124社	
需要の停滞	40	34	36	32	37	48	44	44	40	48	45	43	44	44	
利用者ニーズの変化	25	26	21	26	28	31	24	23	33	28	27	30	24	29	24
販売単価の低下・上昇難	20	18	17	14	16	23	19	20	28	23	18	29	14	24	14
人件費以外の経費の増加	8	7	12	12	14	23	15	18	20	18	20	30	23	19	
新規参入業者の増加	7	7	11	9	12	10	10	14	11	10	8	14	7	7	
同業者の進出	7				10			7	5	13	8	9	8	8	4
人件費の増加	6	8	6	8	7	13	11	16	9	14	13	12	16	11	13
大型・中型店の進出による競争激化		8	6			9	8	8	9	8		8		5	6
購買力の他地域への流出				8				8	8	9		10		7	
その他							1	3	6	2	3	3	1	11	9



# 業種別の特徴

## 1 製造業（原油高や原材料の高騰により後退局面いりか。先行き急冷却か。）

景況感は 25.0 ポイント悪化しプラス 0.0、と後退局面入りし、先行きは原油高などによる原材料の高騰を懸念材料から大幅な悪化見通し。

経営上の課題は、「加工単価の低下」「需要の停滞」や「人件費以外の経費の増加」など設備投資は OA 機器の投資以外冷え込んだ状態が続いている。

業況判断 DI は、売上額・採算・資金繰りともに大幅に悪化(今期売上額 DI は悪化しプラス 7.7、採算 DI はマイナス 15.4 と。資金繰り DI もマイナス 7.7 とすべての DI が悪化しました、業況 DI はプラス 25.0 から 25.57 ポイント悪化して、0.0 となりました。先行きは売上額マイナス 15.4・資金繰りマイナス 30.8 から景況感はマイナス 38.5 と下げ幅最大の見通し。業種別順位は 1 位から 3 位に後退。

3 カ月後の業況見込み DI はマイナス 38.5 と急冷却の見通しです。

売上額 DI もマイナス 15.4 と 23.1 ポイント悪化し、資金繰り DI もマイナス 30.8。来期採算見込み DI もマイナス 38.5 と、23.1 ポイント悪化の見通しです。

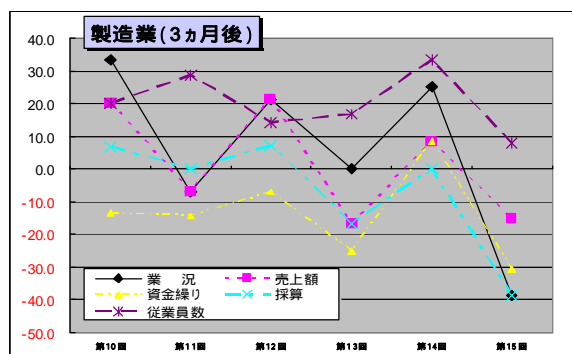
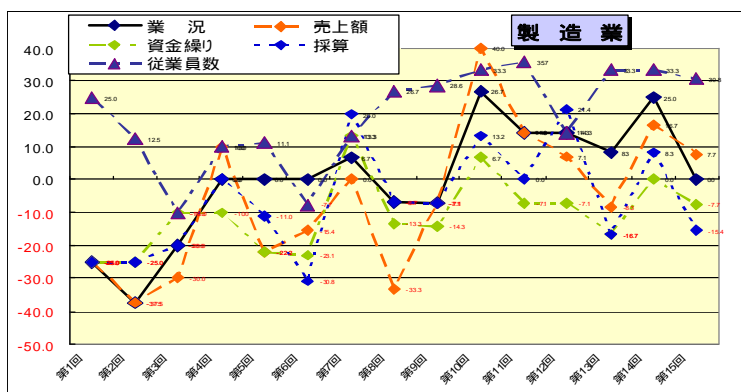
雇用状況を示す従業員数 DI は、プラス 30.8 と横ばい、従業員の人手不足感が進んでいる。来期はプラス 7.7 と急速に改善となるようです。調査 6 業種中、同率 1 位から 1 位となりました。

### ・ 設備投資の動向

設備投資の動向は、OA 機器に 15.4% (2 社) 機械設備に 7.7%(1 社)で設備投資があり、来期には、OA 機器に 23.1%(3 社)、機械設備などに 7.7%(1 社)、の企業が設備投資の計画あり、OA 機器の投資がありましたがその他は冷え込んだ状態が長引いている。

### ・ 経営上の問題点

経営上の問題点の第 1 位は「製品（加工）単価の低下等」が 38.5%(5 社)、「需要の停滞」が 30.8% (4 社) つづいて「人件費以外の経費の増加で 23.1%(3 社)、「原材料の高騰」が 15.4% (2 社) など、前期に比べ、「製品(加工)単価の低下・上昇難」が 1 社から 5 社に増加、「需要の停滞」が 4 社から 4 社、「人件費以外の経費の増加」も 3 社から 3 社に横ばいでした。



製造業	対前年比															3ヵ月後				
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
業況	-25.0	-37.5	-20.0	0.0	0.0	0.0	6.7	-6.7	-7.1	26.7	14.3	14.3	8.3	25.0	0.0	-7.1	21.4	0.0	25.0	-38.5
売上額	-25.0	-37.5	-30.0	10.0	-22.2	-15.4	0.0	-33.3	-7.1	40.0	14.3	7.1	-8.3	16.7	7.7	-7.1	21.4	-16.7	8.3	-15.4
資金繰り	-25.0	-25.0	-10.0	-10.0	-22.2	-23.1	13.3	-13.3	-14.3	6.7	-7.1	-7.1	-16.7	0.0	-7.7	-14.3	-7.1	-25.0	8.3	-30.8
採算	-25.0	-25.0	-20.0	0.0	-11.0	-30.8	20.0	-6.7	-7.1	13.2	0.0	21.4	-16.7	8.3	-15.4	0.0	7.1	-16.7	0.0	-38.5
従業員数	25.0	12.5	-10.0	10.0	11.1	-7.7	13.3	26.7	28.6	33.3	35.7	14.3	33.3	30.8	28.6	14.3	16.7	33.3	33.3	7.7
設備投資の動向	OA機器	1	1	1	1		2	2	2	2	2	2	2	2	2					3
	機械設備	1			1		1	1	1			1	1	1	1	3	1			1
	車輛運搬具					1	3													
	建物								1	1				1						1
	付帯施設				1	1														
	その他														1					

## 2 建設業（景況感はマイナスに転じる。先行き不透明。経営課題は経費の増加など。）

景況感は材料費の改正建築基準法の施行による住宅着工件数の減少により大幅に悪化、マイナス35.7とマイナスに転じました。先行きも横ばいの見通し。

経営上の課題は、「請負単価の低下・上昇難」（5社）「人件費以外の経費の増加」（4社）、「需要の停滞」（民間需要の停滞が3社と官公需要の停滞が1社）など。

設備投資は車両運搬具3社、やOA機器に2社と低調。

業況判断DIは、売上額DIが3期連続して悪化し、マイナス28.8。採算DIは急激な悪化に転じマイナス71.4。資金繰りDIもマイナス35.7に悪化、景況感はマイナス35.7と大幅に悪化しました。業種別順位は6業種中、2位から6位となりました。

3ヶ月後の業況見込みDIは、住宅着工件数の減少などの不透明感もあり、回復の見込みを模索も手掛かりが見いだせず、横ばい見通しです。見通しの内容としては、来期の売上額見込みDIはマイナス35.7と今期に比べ7.1ポイント悪化、来期の採算見込みDIも材料費の値上等を危惧して横ばい見通し。来期資金繰りDIマイナス50.0となっている。

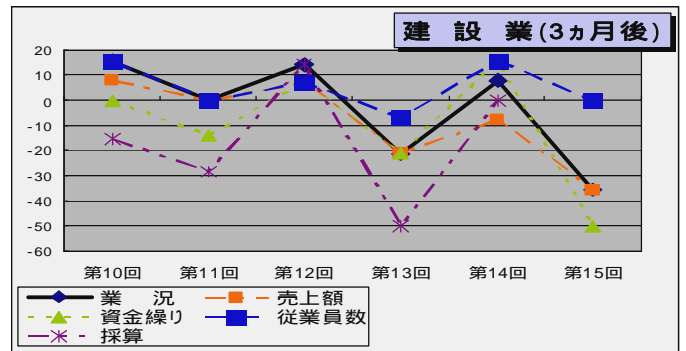
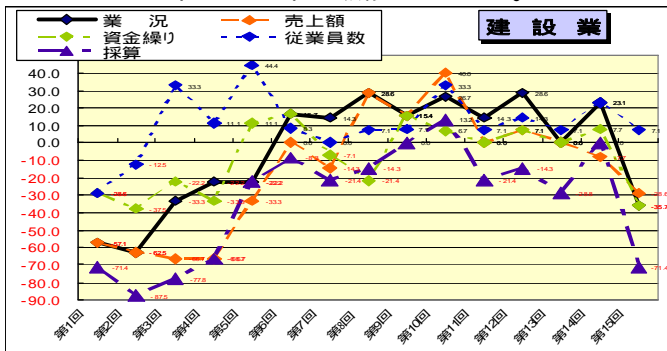
雇用状況を示す従業員数DIが、プラス7.1と人手不足気味ですが、の改善が進みました、来期に向かっては受注減にともない労働力の不足感が少し緩和する見込みです。調査6業種同率2位から5位になりました。

### ・ 設備投資の動向

設備投資の動向は、車両運搬具14.3%(2社)と、OA機器と機械設備、その他が7.1%(各1社)の5件の投資が実施された。(前期は4件) 来期の投資についても、OA機器、車両運搬具、その他に7.1%(各1社)の企業で投資計画があるのみできわめて低調でした。(投資は5件から8件に微増した。)

### ・ 経営上の問題点

経営上の問題点の第1位は「請負単価の低下・上昇難」47.2%から35.7%に11.5%減少(5社)ついで、第2位「人件費以外の経費の増加」が53.8%(4社) 第3位は「需要の停滞」(民間需要の停滞が30.8%から21.4%(4社から3社に1社減少)「官公需要の停滞」21.4%(2社から1社に1社減少、ガソリン代や原材料費の値上げが21.4%(3社)などと回答している。前期調査に比べ「人件費以外の経費の増加」が7社か4社に23.7%(3社)減少している。「請負単価の低下・上昇難」が6社から5社に1社減少している。「大企業の進出による競争の激化」が2社から0社に減少している。



建設業	対前年比															3ヵ月後				
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
業況	-57.1	-62.5	-33.3	-22.2	-22.2	16.7	14.3	28.6	15.4	26.7	14.3	28.6	0.0	23.1	-35.7	0.0	14.3	-21.4	7.7	-35.7
売上額	-57.1	-62.5	-66.7	-66.7	-33.3	0.0	-14.3	28.6	15.4	40.0	0.0	7.1	0.0	-7.7	-28.6	0.0	7.1	-21.4	-7.7	-35.7
資金繰り	-28.6	-37.5	-22.2	-33.3	11.1	16.7	-7.1	-21.4	15.4	6.7	0.0	7.1	0.0	7.7	-35.7	-14.3	7.1	-21.4	15.4	-50.0
採算	-71.4	-87.5	-77.8	-66.7	-22.2	-8.3	-21.4	-14.3	0.0	13.2	-21.4	-14.3	-28.8	0.0	-71.4	-28.6	14.3	-50.0	0.0	-71.4
従業員数	-28.6	-12.5	33.3	11.1	44.4	8.3	0.0	7.1	7.7	33.3	7.1	14.3	7.1	23.1	7.1	0.0	7.1	-7.1	15.4	0.0
設備投資の動向																				
OA機器	2	1	2	1	1	1	3	2	2	1	3			2	1	1				1
機械設備			1				2	2						1	1	1				
車両運搬具	1	2	3	1		3	2	1	4			1	4	2	2		1	2		1
建物								1	1			1	1	1				1	1	
付帯施設				1	1											2	1	1	1	
その他													1		1					1

### 3 小売業（最寄品）（業況 DI は 3 期連続悪化、マックス幅が拡大し、先行改善を模索。）

景況感は、3 期連続悪化し、マックス 15.0 と 10.0 ポイントの悪化、先行きはマックス 10.0 見通し  
 経営上の課題は、「需要の停滞」と「利用者ニーズの変化」

設備投資は OA 機器や車両運搬具などに投資が見られた。

業況判断 DI は、売上額 DI はマックス 15.0 と悪化、採算 DI はマックス 30.0 と 10.0 ポイント悪化、資金繰り DI はマックス 20.0 と悪化したのに伴い。景況感はマックス 15.0 と 10.0 ポイント悪化しました。業種別順位では 6 業種中 5 位から単独 5 位になりました。

3 ヶ月後の業況見込み DI は、売上額 DI はマックス 10.0、採算については横ばい見通しから、景況感はマックス 10.0 と今期に比べて 5.0 ポイント改善見通しを示す。

雇用状況を示す従業員数 DI は、プラス 5.0 と横ばいでした。来期に向かっては 10.0 と不足気味の状況のみこみです。調査 6 業種中、6 位から 6 位となりました。

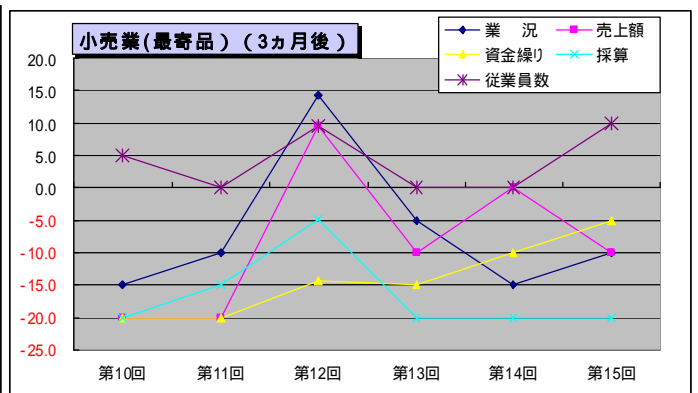
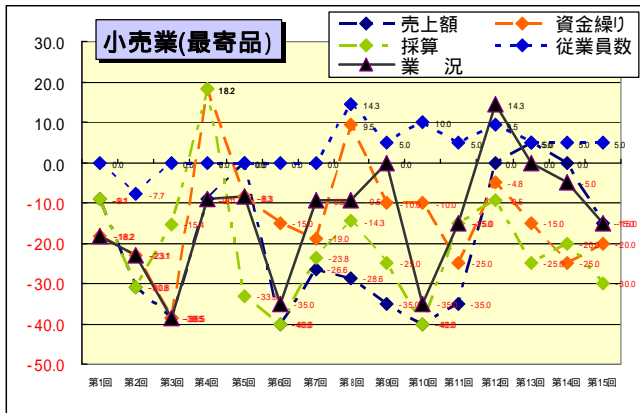
#### ・ 設備投資の動向

設備投資の動向は、調査 20 社のうち、OA 機器、車両運搬具が各 3 社（15.0%）と機械設備 2 社、建物が 1 社（5.0%）の企業が投資した。来期の投資については、OA 機器に 2 社（10%）機械設備や車両運搬具に各 1 社（5.0%）、の企業に投資計画があり、企業の投資活動は弱い動きが見られる。

#### ・ 経営上の問題点

経営上の問題点の第 1 位「需要の停滞」が 40%（8 社）、第 2 位「利用者ニーズの変化」が 3 社から 5 社、第 3 位は「人件費以外の経費の増加」が 20.0%（4 社）などが、企業で抱えている問題と回答した。

前回調査に比べて、「需要の停滞」が 9 社から 8 社に 1 社増加「利用者ニーズの変化」が 3 社から 5 社に 2 社増加した、「販売単価の低下・上昇難」が 7 社から 3 社に 20.0%（4 社）の減少した。



小売業 (最寄品)	対前年比															3ヵ月後						
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回		
業況	-18.2	-23.1	-38.5	-9.1	-8.3	-35.0	-9.5	-9.5	0.0	-35.0	-15.0	14.3	0.0	-5.0	-15.0	-10.0	14.3	-5.0	-15.0	-10.0		
経営状況	売上額	-9.1	-30.8	-38.5	-9.1	0.0	-40.0	-26.6	-28.6	-35.0	-40.0	-35.0	0.0	5.0	0.0	-15.0	-20.0	9.5	-10.0	0.0	-10.0	
	資金繰り	-18.2	-23.1	-38.5	18.2	-8.3	-15.0	-19.0	9.5	-10.0	-10.0	-25.0	-4.8	-15.0	-25.0	-20.0	-20.0	-14.3	-15.0	-10.0	-5.0	
	採算	-9.1	-30.8	-15.4	18.2	-33.3	-40.0	-23.8	-14.3	-25.0	-40.0	-15.0	-9.5	-25.0	-20.0	-30.0	-15.0	-4.8	-20.0	-20.0	-20.0	
	従業員数	0.0	-7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	5.0	10.0	5.0	9.5	5.0	5.0	0.0	9.5	0.0	0.0	10.0	
設備投資の動向	OA機器	2	1			2	2		1		1	1	1	3	2	3	3			1	2	
	機械設備		1	1		1	3	1	2	1	1	1	1	3	1	2	2		1		1	
	車両運搬具						1	1	1	1	2	3	2	1	1	3	1	1	1	3	1	
	建物	1	1				1	2	1	1	2	2	1			1			1	2		
	付帯施設		1	1																	1	
	その他																					

#### 4 小売業(買回品)(業況DIは3期振りに改善したがマウス3.3、先行き需要の停滞など悪化懸念材料多い。長く冷え込む設備投資。)

景況感は、売上額と資金繰りの改善をうけて、マウス3.3と8.7ポイント改善しました。先行きは長引く需要の停滞などから採算面などの悪化を懸念して大幅な悪化見通し。

経営上の課題は「需要の停滞」や「利用者ニーズの変化」、「販売単価の低下・上昇難」。設備投資は冷え込んだ状況が長く続いている。

業況判断DIは、売上額DIは2.7ポイント改善し、マウス13.3となる。採算DIはマウス16.7と8.7ポイント悪化。資金繰りDIは8.7ポイント改善しマウス3.3となり、景況感は、マウス3.3と大幅に改善しました。業種別順位では6位から4位に上昇。

3ヵ月後の業況見込みDIは来期の売上見込みDIはマウス33.3今期に比べ30.0ポイントの悪化、来期の採算見通しDIもマウス36.720.0ポイント悪化、資金繰りDIは、12.7ポイントの悪化を予想しています。これを受けて景況感はマウス33.3と今期に比べ30.0ポイント悪化予想。

雇用状況を示す従業員数DIは、プラス6.7と従業員は不足気味が解消、調査6業種中同率4位から5位になりました。来期の状況はプラスの10.0と不足すると予想しています。

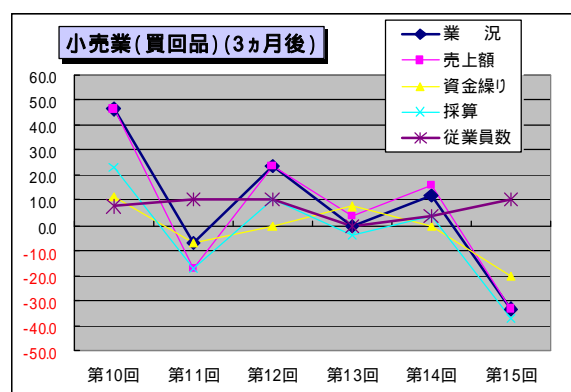
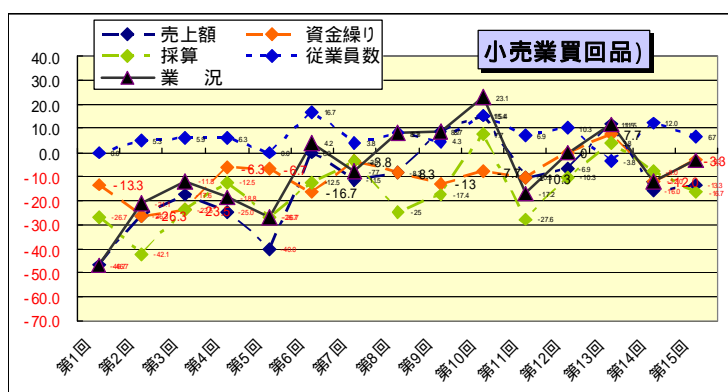
##### ・ 設備投資の動向

設備投資の動向は、今期企業が投資を実施した企業が機械設備1社、建物等、1社しかありませんでした。来期の投資についても、建物等に3社、OA機器に6.7%(2社)、車両運搬具に1社の企業で投資計画が見られるのみと冷えこみ低調である。

##### ・ 経営上の問題点

経営上の問題点の第1位「需要の停滞」で50.0%(15社)、第2位「利用者ニーズの変化」26.7%(8社)ついで第3位が「販売単価の低下・上昇難」で16.7%(5社)。ついで「人件費の増加」が10.0%(3社)などである。

前回調査に比べて、「需要の停滞」は13社から15社へと2社増加、「販売単価の低下・上昇難」は6社から5社に1社減少し、「利用者ニーズの変化」が11社から8社と22.3%(3社)減少した。



小売業(買回品)	対前年比	3ヵ月後																			
		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回					
業況		-46.7	-21.1	-11.8	-18.8	-26.7	4.2	-7.7	8.3	8.7	23.1	-17.2	0	11.5	-12.0	-3.3	-6.9	24.1	0.0	12.0	-33.3
売上額		-46.7	-26.3	-17.6	-25.0	-40.0	0.0	-11.5	-8.3	8.7	15.4	-10.3	-6.9	11.5	-16.0	-13.3	-17.2	24.1	3.8	16.0	-33.3
資金繰り		-13.3	-26.3	-23.5	-6.3	-6.7	-16.7	-3.8	-8.3	-13	-7.7	-10.3	0	7.7	-12.0	-3.3	-6.9	0.0	7.7	0.0	-20.0
採算		-26.7	-42.1	-23.5	-12.5	-26.7	-12.5	-3.8	-2.5	-17.4	7.7	-27.6	-10.3	3.8	-8.0	-16.7	-17.2	10.3	-3.8	4.0	-36.7
従業員数		0.0	5.3	5.9	6.3	0.0	16.7	3.8	8.3	4.3	15.4	6.9	10.3	-3.8	12.0	6.7	10.3	10.3	0.0	4.0	10.0
設備投資の動向			3	2	1	1	1	3	3	3	4	3							1	1	2
OA機器																					
機械設備																					
車両運搬具		1	1	3	1	1					2	1	2								1
建物			1		1	1												1		1	
付帯施設		1																			
その他														2						1	



## 5 飲食業 (業況 DIはプラス16.0と改善したが、先行き採算等の悪化懸念材料多い。)

景況感は12.3ポイント改善してプラス16.0。先行きは懸念材料多くマイナス16.0に悪化見通し。

経営上の課題は「人件費以外の経費の増加」「需要の停滞」や「利用者ニーズの変化」「人件費の増加」や「販売単価の低下・上昇難」など。設備投資は機械設備に弱い動きが見える。

業況判断 DI は、売上額 DI が、プラス4.0と7.7ポイントも改善し、採算 DI はマイナス4.0。資金繰り DI もプラス16.0と改善した。景況感はプラス16.0と12.3ポイント改善した。業種別順位では、4位から1位に上昇した。

3ヵ月後の業況見込み DI は、今期と比べ32.0ポイントも悪化の見通し。来期売上額見込み DI もマイナス28.0と、大幅に悪化を予想。来期の採算見通し DI もマイナス28.0と悪化。資金繰り DI もマイナス24.0の見通しである。

雇用状況を示す従業員数 DI は、プラス20.4と労働力の不足感がある。が来期に向かい閑散期を迎えプラス12.0と少し緩和の見通しを示す。調査6業種中、第5位から1位の結果である。

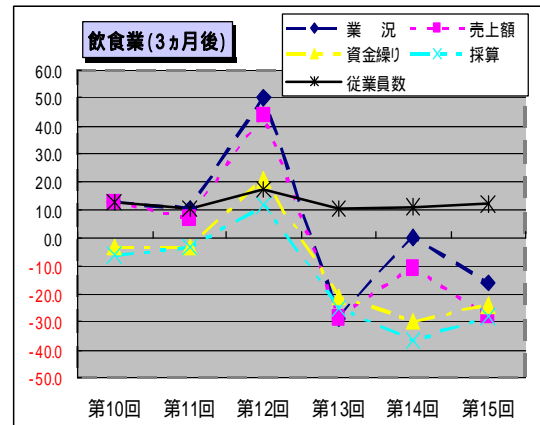
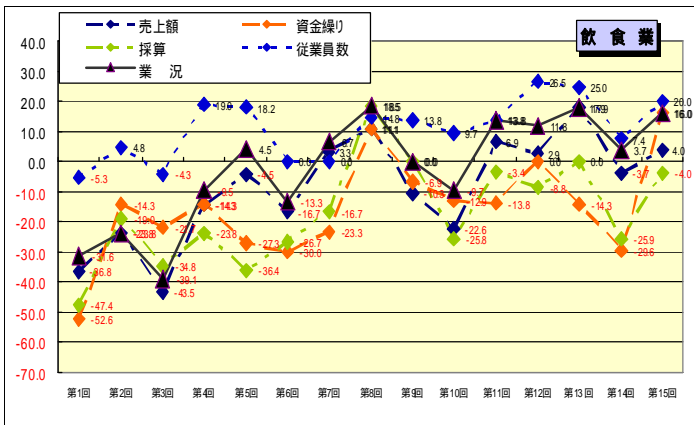
### ・ 設備投資の動向

設備投資の動向は、機械設備20.0%(5社)建物等8.0%(2社)、OA機器が、4.0%(1社)の企業で投資が見られた。来期の投資でも、OA機器、機械設備に各1社の4%、建物等に2社(8.0%)の企業で投資計画があり再び冷え込みがみられる。

### ・ 経営上の問題点

経営上の問題点の、第1位「人件費以外の経費の増加」が、36.0%(9社)、第2位「需要の停滞」で32.0%(8社)、第3位「利用者ニーズの変化」と「人件費の増加」が各24.0%(6社)次いで、第5位が「販売単価の低下・上昇難」が、16.0%(4社)などである。

前回調査に比べて、「人件費以外の経費の増加」が4社から9社に21.2%(5社)増加した「需要の停滞」が11社から8社に8.7%(3社)減少し、「利用者ニーズの変化」が7社から6社に1.9%(1社減少)、減少した。



飲食業	対前年比															3ヵ月後				
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
業況	-31.6	-23.8	-39.1	-9.5	4.5	-13.3	6.7	18.5	0.0	-9.7	13.8	11.8	17.9	3.7	16.0	10.3	50.0	-28.6	0	-16.0
経営状況																				
売上額	-36.8	-23.8	-43.5	-14.3	-4.5	-16.7	3.3	11.1	-10.3	-22.6	6.9	2.9	17.9	-3.7	4.0	6.9	44.1	-28.6	-11.1	-28.0
資金繰り	-52.6	-14.3	-21.7	-14.3	-27.3	-30.0	-23.3	11.1	-6.9	-12.9	-13.8	0.0	-14.3	-29.6	16.0	-3.4	20.6	-21.4	-29.6	-24.0
採算	-47.4	-19.0	-34.8	-23.8	-36.4	-26.7	-16.7	18.5	0.0	-25.8	-3.4	-8.8	0.0	-25.9	-4.0	-3.4	11.8	-25.0	-37	-28.0
従業員数	-5.3	4.8	-4.3	19.0	18.2	0.0	0.0	14.8	13.8	9.7	13.8	26.5	25.0	7.4	20.0	10.3	17.6	10.7	11.1	12.0
設備投資の動向																				
OA機器	2			1	1					3	2	1	2	1	1	1	3		3	1
機械設備	1	2	1		4	6	6	2	2	4	4	1	4	6	5	4	1	4	3	1
車輛運搬具	1		1	1	1		1		2	3	1	1	2	1	1	1	1		1	
建物					1	1	1	1	3	4	3	1		4	2		1	3	3	2
付帯施設	3		1		2															
その他								1		1	0	3								

## 6 サービス業（業況 DI は 2 期連続して悪化し、先行き改善の期待感を抱く）

景況感は 3.2 ポイント悪化してプラス 4.5 となるが、先行きは改善を期待している。

経営上の課題は「需要の停滞」や「人件費以外の経費の増加」・「利用者ニーズの変化」

設備投資は OA 機器の投資に明るさが見られる。

業況判断 DI は、売上高 DI が 0.8 ポイント悪化してマイナス 4.5 となる、採算 DI はプラス 13.6 と、36.7 ポイントの改善は第 3 回調査と以来最良。資金繰り DI もプラス 4.5 と 19.9 ポイント改善。景況感は、3.2 ポイント悪化してプラス 4.5 となった。業種別順位で第 3 位から第 2 位になりました。

3 カ月後の業況見込み DI はプラス 13.6 と 9.1 ポイントの改善は。来期売上額見込み DI はプラス 4.5。来期の採算見通し DI はプラス 9.1 と改善の見通しを示し、資金繰り DI もマイナス 0.0 の見通しを示し、すべての指標で改善を見込み期待感を示す。

雇用状況を示す従業員数 DI は、1.0 ポイント改善したがプラス 18.2 と労働力の人手不足感が強い。来期に向けても 9.1 ポイント改善するが不足の傾向が続いている。調査 6 業種中 3 位から 3 位。

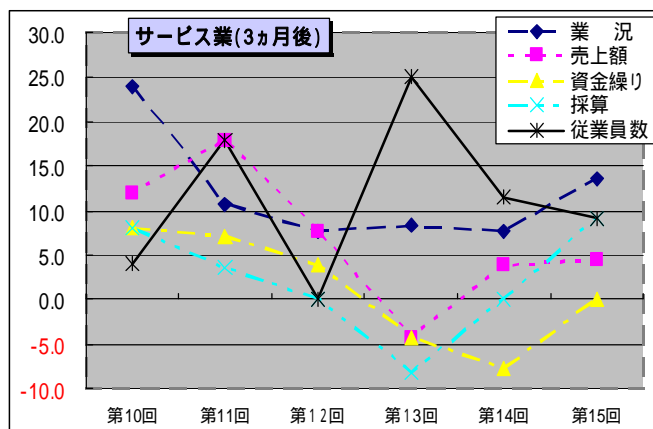
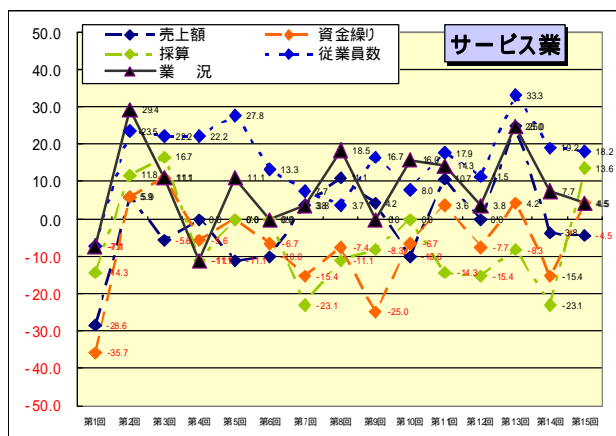
### ・ 設備投資の動向

設備投資の動向は、調査 22 社のうち、OA 機器 18.2%(4 社) 車輛運搬具・、機械設備 4.5%(各 1 社) の 7 件の投資しかなかった。来期の投資計画については、OA 機器 18.2% (4 社) 車輛運搬具・建物等・その他が各 4.5%(各 1 社)の投資計画が見られる。景気悪化によって手控えが続く

### ・ 経営上の問題点

経営上の問題点の、第 1 位は「需要の停滞」40.9% (9 社) 2 位が「人件費以外の経費の増加」が 27.3%(6 社)、「利用者ニーズの変化」が 22.7%(5 社)、などが経営上の課題である。

前回調査に比べ「需要の停滞」が 7 社から 9 社に 14.0%(2 社)増加した、「人件費以外の経費の増加」が 4 社から 6 社に、11.9%(2 社)増加した。「利用者ニーズの変化」は 8 社から 5 社に 3 社 (8.1%) 減少、「販売価格の低下・上昇難」は 7 社から 2 社に 17.8% (5 社) も減少した。



サービス業	対前年比															3ヵ月後				
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
業況	-7.1	29.4	11.1	-11.1	11.1	0.0	3.8	18.5	0.0	16.0	14.3	3.8	25.0	7.7	4.5	10.7	7.7	8.3	7.7	13.6
売上額	-28.6	5.9	-5.6	0.0	-11.1	-10.0	3.8	11.1	4.2	-10.0	10.7	0.0	25.0	-3.8	-4.5	17.9	7.7	-4.2	3.8	4.5
資金繰り	-35.7	5.9	11.1	-5.6	0.0	-6.7	-15.4	-7.4	-25.0	-6.7	3.6	-7.7	4.2	-15.4	4.5	7.1	3.8	-4.2	-7.7	0.0
採算	-14.3	11.8	16.7	-11.1	0.0	0.0	-23.1	-11.1	-8.3	0.0	-14.3	-15.4	-8.3	-23.1	13.6	3.6	0.0	-8.3	0.0	9.1
従業員数	-7.1	23.5	22.2	22.2	27.8	13.3	7.7	3.7	16.7	8.0	17.9	11.5	33.3	19.2	18.2	17.9	0.0	25.0	11.5	9.1
設備投資の動向																				
OA機器	2	1	2	3	3	2	4	2	1	3	3	0	4	3	5	5	2	2	3	4
機械設備				1	1	1	2						1	1	1	2				
車輛運搬具	1	1	1	2	1	1	2		1	2	2	1	1	1	1	1	2			1
建物									2											1
付帯施設		1	2	1										1						
その他																				1

# 資料編

## 第14回：景気動向DI結果 (平成19年10月調査)

景況調査結果		総合	製造業	建設業	小売業		飲食業	サービス業
					最寄品	買回り品		
業況	(今期)	7.1	25	23.1	-5	-12	3.7	7.7
	(3ヵ月後)	6.2	25	7.7	-15	12	0	7.7
今期経営状況	売上額	-2.4	16.7	-7.7	0	-16	-3.7	-3.8
	資金繰り	-12.4	0	7.7	-25	-12	-29.6	-15.4
	採算	-11.4	8.3	0	-20	-8	-25.9	-23.1
	従業員数	16.7	33.3	23.1	5	12	7.4	19.2
見通し3ヵ月後	売上額	1.6	8.3	-7.7	0	16	-11.1	3.8
	資金繰り	-3.9	8.3	15.4	-10	0	-29.6	-7.7
	採算	-8.8	0	0	-20	4	-37	0
	従業員数	12.6	33.3	15.4	0	4	11.1	11.5

## 第14回：設備投資結果 (平成19年10月調査)

景況調査結果		総合	製造業	建設業	小売業		飲食業	サービス業
					最寄品	買回り品		
今期	OA機器	7		1	2		1	3
	機械設備	8			1		6	1
	車輛運搬具	7	1	2	1		1	2
	建物(付帯設)	6	1	1			4	
	付帯施設							
	その他	1						1
3ヵ月後	OA機器	9	1		1	1	3	3
	機械設備	3					3	
	車輛運搬具	4			3		1	
	建物(付帯設)	7	1	1	2		3	
	付帯施設							
	その他	1			1			

## 第14回：経営上の問題点 (平成19年10月調査)

景況調査結果		総合	製造業	建設業	小売業		飲食業	サービス業
					最寄品	買回り品		
需要の停滞		44	4	6	9	13	11	7
利用者ニーズの変化		29			3	11	7	8
販売単価の低下・上昇難		24	1	6	7	6	4	7
人件費以外の経費の増加		23	3	7	4		4	
新規参入業者の増加		7				1	5	1
同業者の進出		8					5	3
人件費の増加		11	1	1	2	2	4	1
大型・中型店の進出による競争の激化		5		2		2		3
購買力の他地域への流出		7			2	3	2	
その他	良い人材の確保:1			請負単価の低下:1	仕入単価の上昇	経営者の高齢化	材料費の値上:2	人材の不足:1
	原材料の高騰:3			民間需要の停滞:4				取引条件の変更
				加工単価の低下:1	官公需要の停滞:2			
				取引条件の悪化:2	大企業の進出で競争激化:2			

### 第15回:景気動向DI結果 (平成20年1月調査)

景況調査結果		総合	製造業	建設業	小売業		飲食業	サービス業
					最寄品	買回り品		
業況	(今期)	-5.6	0	-35.7	-15	-3.3	16	4.5
	(3ヵ月後)	-20	-38.5	-35.7	-10	-33.3	-16	13.6
今期経営状況	売上額	-8.3	7.7	-28.6	-15	-13.3	4	-4.5
	資金繰り	-7.7	-7.7	-35.7	-20	-3.3	16	4.5
	採算	-20.6	-15.4	-71.4	-30	-16.7	-4	13.6
	従業員数	14.6	30.8	7.1	5	6.7	20	18.2
見通し3ヵ月後	売上額	-19.6	-15.4	-35.7	-10	-33.3	-28	4.5
	資金繰り	-21.6	-30.8	-50	-5	-20	-24	0
	採算	-30.9	-38.5	-71.4	-20	-36.7	-28	9.1
	従業員数	8.1	7.7	0	10	10	12	9.1

### 第15回:設備投資結果 (平成20年1月調査)

景況調査結果		総合	製造業	建設業	小売業		飲食業	サービス業
					最寄品	買回り品		
今期	OA機器	12	2	1	3		1	5
	機械設備	11	1	1	2	1	5	1
	車輛運搬具	6		2	3			1
	建物(付帯設備等含む)	4			1	1	2	
	付帯施設							
	その他	2	1	1				
3ヵ月後	OA機器	13	3	1	2	2	1	4
	機械設備	3	1		1		1	
	車輛運搬具	4		1	1	1		1
	建物(付帯設備等含む)	6				3	2	1
	付帯施設							
	その他	2		1				1

### 第15回:経営上の問題点 (平成20年1月調査)

景況調査結果		総合	製造業	建設業	小売業		飲食業	サービス業
					最寄品	買回り品		
需要の停滞		44	4	4	8	15	8	9
利用者ニーズの変化		24	1		5	8	6	
販売単価の低下・上昇難		14	5	5	3	5	4	2
人件費以外の経費の増加		19	3	4	4	1	9	6
新規参入業者の増加			3	1	1	1		2
同業者の進出		4			1	1		2
人件費の増加		13	1	1		3	6	2
大型・中型店の進出による競争の激化		6			3	2		1
購買力の他地域への流出					1	2	2	2
その他	良い人材の確保: 2			請負単価の低下・上昇難	人材不足	顧客の高齢化		人材の不足: 1
	原材料の高騰: 8	原材料価格の上昇	民間需要の停滞: 3	銀行の融資が困難				
			官公需要の停滞: 1					
			カリリ・材料費の値上げ: 3					